

令和7年 学長年頭挨拶

明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い致します。

11日間連続する年末年始休業でしたが、ゆっくりお過ごしになられたでしょうか。

さて、新年に当たって、まずは簡単に昨年を振り返ってみたいと思います。

まず組織面では、昨年4月に、本学の特徴であるAll in One Campusの実質化を進めるべく、教教分離を導入しました。学部、研究科の枠を越えた連携を一層加速し、本学の教育、研究活動の充実を図ってまいりたいと思います。

教育面では、課題解決型教育の拡大、数理・データサイエンス・AI教育の全学展開等の取組を進めることができました。また、大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業への採択を契機に、日本人学生と留学生がともに学び合える多文化共修体制を構築して本学の国際化をさらに推進したいと思います。

研究面では、社会変革研究センターに、地域の防災、減災につなげる取組を行うレジリエント社会研究部門を設置しました。また、大学院理工学研究科の豊田教授の研究がJSTのERATOに採択されるなどめざましい成果もありました。今後、分野を融合した挑戦的な研究が進展することを期待しています。

その他、昨年は東洋大学、埼玉県生産性本部と新たに連携協定を締結しました。埼玉医科大学、埼玉県立大学との事業も継続して連携を深めています。今後も、他大学、組織と相互に強みを生かして本学の機能強化を図ってまいりたいと思います。

これらは、昨年の活動のほんの一例ですが、多くの成果を残すことができたのも、皆様お一人お一人のご尽力の賜物です。この場を借りて、全ての教職員の努力とご協力に対して感謝を申し上げます。

さて、本年4月からは、私の学長としての最終年度になります。今後、力を入れて進めていきたい事項の中から4点ほど紹介したいと思います。

1点目は、令和8年度からの改組に向けた取組です。人文社会科学研究科のダイバーシティ科学専攻の新設に加えて、教養学部の共生構想専修課程、工学部女子学生入学枠の設置、教育学部のカリキュラム改革の準備を進めてまいります。

2点目は、中期目標・中期計画の達成に向けた取り組みの一層の加速です。令和7年度は第4期の4年目にあたり、4年終了時までの達成度が概ね今期の評価となり、その結果が第5期の運営費交付金に反映されます。引き続き指標の達成に向けご協力頂けますようお願い致します。

3点目は、研究時間の回復、DXの推進の取組です。業務の効率化とともに教員の研究時間の増加を、教職員一丸となって取り組んでいきたいと思います。

4点目は、資産の有効活用です。ご承知のとおり、人件費、物価などの上昇により、本学の財政は厳しい状況にあります。資産の有効活用、業務の在り方の見直し、外部資金の獲得等を進めてまいります。

これらを含めた様々な取り組みにより、本学のさらなる機能強化を図っていききたいと思います。

最後に、例年同様、入試についてお願いがございます。今年も１月１８日、１９日に大学入学共通テストが、２月、３月には個別試験が予定されています。教職員の皆様方にはご負担をかけることになりますが、入試業務はアドミッションポリシーに沿って学生を選抜する、大学にとって重要な業務です。厳正な入試の実施に、引き続きご協力をお願い申し上げます。

改めまして、皆様とご家族にとりまして、令和 7 年が健康で充実した一年となることを心より祈念して、年頭の挨拶とさせていただきます。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

令和7年1月6日

埼玉大学長 坂井 貴文